



1年生阿蘇研修

目 次

校長だより	2
入学式／編入学生・新入留学生紹介／留学生歓迎会	3
新任教職員紹介	4・5
特集 現代GPにおける取組を振り返って	6・7
特集 4年生研修旅行	8・9
新入生阿蘇オリエンテーション	10
2年生研修旅行	11
専攻科1泊研修／新入生歓迎行事	12
岱明寮だより	13
春季球技大会／卒業式・修了式	14
卒業生・修了生の進路／学生表彰	15
トピックス／編集後記	16

※本文中ににおいて、学生氏名の前にある英数字等は、所属クラスを表します。

(数字:学年、M:機械工学科、E:電気工学科、I:電子情報工学科、C:物質工学科、A:建築学科、専:専攻科 但し、2年生は学年 - 組)

高専2年目の抱負

校長だより



たていばみつお
校長 立居場 光生

昨年4月から1年が瞬く間に過ぎました。昨年10月頃から有明高専のことがあまり分かってきましたし、少し落着いて高専生活を送れるようになりました。本科の2年生や編入2年目の学生が本校の生活になじんでき、将来に向って意欲的に取り組んでいる、あるいは思案しているのと同じ状況です。

私の取り組みや思案をいくつか紹介します。

1. 福岡、熊本、佐賀の各県の中学校から志をもった多くの生徒が競って本校入学を目指すようにしたいと考えています。それには、本校をより一層魅力的な学校にして、その魅力を広く知っていただく必要があります。このため、教育環境の整備や新しい教育の導入による学力向上、学校紹介の工夫、福岡市内の受験会場の設置などを行う予定です。他方、留年や退学の学生ができるだけ少なくして、本校から有能な技術者を多数社会に輩出したいと思います。

2. 上記の1と関係しますが、寮の居住性や学習環境を充実したいと考えています。この課題はお金の問題もあって、本校だけの取り組みでは容易に解決できませんが、重要な課題ですので、充実に向けて鋭意努力したいと思います。

3. 地域と連携した研究及び教育をこれまで同様に推進するつもりです。有明地域には工学系の大学がないこともあって、本校との共同研究の推進が地元から期待されています。本校はその期待にそってこれまで取り組んできました。これをさらに発展させ、推進したいと思います。地域との連

携は研究に留まらず、学生の教育にとっても必要です。現場を知り、実際問題の解決に取り組むことは技術者の実践教育の基本であるからです。また、教育および文化面での地域貢献は本校の大切な役目であると考えています。

4. 最後に国際交流について触れます。海外研修や外国の学生との交流は、各自の視野を広げ、かつ本校で勉強する目的を明確にする上で、大変有益です。その参考例を紹介します。某大学では毎年新入生20名程度に対して米国のシリコンバレーとスタンフォード大学で1週間程度研修するプログラムが実施されています。受験勉強に集中したので、入学後はサークル活動などを楽しみながら少しのんびりとしたいなどと考えていたところ、この考えは甘く、世界では通用しないことが分かり、研修後全員が将来の目標を立て、その実現に向って猛烈に勉強するようです。短期間の海外研修が狭い環境の中で安易に考えていた入学目的を劇的に見直すきっかけになっていることは注目すべきです。本校でも国際交流等を通じた教育活動には力を入れて行きたいと考えています。

高専教育は社会的に高く評価されてきました。同時に時代の要請に応えられる高度な技術者教育機関として、各高専はそれぞれの特色を活かして進展することが期待されています。本校の実情を具体的に示す、上記の取り組み具合などについては、機会をみて今後お伝えして行く予定です。

入学式

4月7日(火) 第1体育館

第47回入学式および第9回専攻科入学式が、4月7日(火)10時より第1体育館で挙行されました。大きな夢と希望を抱いた新1年生205名、3年次編入生(留学生)1名、4年次編入生7名を、有明工業高等専門学校の一員として迎えました。専攻科には、生産情報システム工学専攻18名、応用物質工学専攻6名、建築学専攻7名の合計31名が入学しました。

校長による入学許可や式辞、大牟田市長および荒尾市長による祝辞、新1年生代表 百代咲桜さんおよび専攻科生代表 畑中宏文君による誓詞、教員紹介などが行われました。



校長式辞



専攻科生誓詞



入学式の様子



入学生誓詞

編入学生紹介



4M 永山嵩
(福岡工業)



4E 入江祐太郎
(上五島)



4I 谷川亮平
(長崎工業)



4C 田中祐真
(福岡工業)



4A 坂本健登
(熊本工業)



4A 中村慧太
(球磨工業)



4A 村岡宏樹
(鹿児島工業)

新入留学生紹介

3M Arman Safuan Bin Mohamed Suboh
(アルマン サフアン ビン モハメド スポー)



私はアルマンと申します。マレーシアから参りました。今年の4月から有明高専機械工学科3年に編入しました。

マレーシアは東南アジアにある国で、タイに隣接してシンガポールの近くにあります。マレーシアは日本より小さい国で、人口はちょっと少なく、日本より蒸し暑い国です。キナバル山は東南アジアで一番高い山ですが、残念ながら私は登ったことがありません。人々はほとんどマレー語と英語で話します。

実は、マレーシアで日本語を2年間勉強しましたが、日本に来るのは今年が初めてです。誰も知らなくてちょっと不安でしたが、今は友達もできて喜んでいます。私にとって、日本の文化を習うことは本当に面白いです。皆さん、これからよろしくお願ひいたします。

新入留学生歓迎会

4月10日(金)

新入留学生3Mアルマン君の歓迎会を4月10日に行いました。立居場校長、日本語担当の坂口先生のスピーチ、アルマン君の自己紹介と母国マレーシアの紹介、吹奏楽部の演奏の後、中島学生主事の音頭で乾杯し、アルマン君を囲んで在校留学生、学生、関係教職員とのしばしの和やかな歓談となりました。

学生会長柿原君、永守教務主事のスピーチで締めくくり、アルマン君のこれから3年間の実り多い有明高専生活を参加者全員で祈念して、盛会裏に終了しました。

(国際交流委員会 富永 伸明)



生歓迎会



新任教員紹介

本年度新たに赴任された2名の先生方に、次の4つのこと伺いました。

Q1：本校に来る前は？ Q2：高専あるいは本校学生の印象について Q3：趣味は？ Q4：抱負を一言



建築学科 助教
切原 舞子

- A1：大分大学で、“これからは、住環境は、どうあるべきか”をテーマに、研究に取り組んでいました。
A2：大学でも高専生は活躍していましたが、みな共通して設計課題等での技術力の高さが目につきました。本校の学生はこれに加え大変元気がよく、日頃、その明るさに励まされることも多いです。
A3：映画鑑賞です。映画館もイイですが、自宅でゆっくりDVDも好きです。時間がある時は、4・5本レンタルしてきて、一日中映画漬けの日もあります。
A4：学生である期間は、勉学はもちろんですが、その他にも多くのことに時間を費やすことができます。みなさんが有意義な時間を過ごせるよう、何かきっかけづくりができればと思います。



一般教育科 助教
菱岡 憲司

- A1：九州大学の大学院で学んでおりました。ただ、大学院在籍中から、中学・高校・専門学校・短大・大学で非常勤講師をしており、目の回るような日々でした。
A2：本校の印象は、まず設備が立派なこと。大自然に囲まれているのも、田舎好きの身としてはうれしい限りです。学生については、まず「個性あふれる」容姿におどろきです。しかし、挨拶もきちんと返ってくるし、授業中の受け答えも的確ですので、なるほど、優秀な学生が多いのだな、と感じています。
A3：江戸文学が専門なのですが、「趣味の読書」では、西洋小説を好んで読みます。いまは手放しましたが、バイクにも乗ります。
A4：工業系の皆さんにこそ、読書のよろこびを伝えたいと思っています。本ならいつでも紹介し、お貸ししますので、気軽に研究室に訪ねてきてください。

人事交流教員あいさつ

1年間の人事交流を終え、北九州高専から戻ってこられた物質工学科
出口先生に、次の2つのこと伺いました。

Q1：前任高専と現任高専の違い Q2：前任高専と現任高専の学生の違い



物質工学科 准教授
出口 智昭

- A1：校舎などの施設は同じ平面にある有明と違い北九州は山に沿って5段になっています。一番下がグラウンドで一番上に第二体育館と寮があります。学内の移動は結構大変でした。通学方法に関してはバス、JR、モノレールがあり、有明のように満員バスで通学ということはなかったです。学校の周辺には徒歩5分程度でパン屋、コンビニ、スーパーがあり便利でした。
A2：あまり学生の違いは感じられませんでした。北九州でも特に寮生は大きな声で挨拶をします。学校行事も学生会を中心として進められていましたが、体育祭や球技大会での表彰状は校長先生の名前でなく体育委員長の名で体育委員長が授与していました。体育祭の種目に相撲があつたのにはびっくりしました。

新任教員紹介

新たに赴任された8名の事務職員の方々に、次の4つのこと伺いました。

Q1：本校に来る前は？ Q2：高専あるいは本校学生の印象について Q3：趣味は？ Q4：抱負を一言



学生課長
高嶋 重俊

- A1：都城高専総務課人事係長でした。
A2：校舎改修が進み、すばらしい教育研究環境が整備されていて驚きました。管理棟・学生課棟前のプランターの花や、学生の挨拶は、求人などで訪問された方に好印象だろうと思います。しかし、この素敵なかんじが故意に壊されたのではないかと思われる箇所を数カ所目にしています。公共物は大切にしてください。
A3：軟式野球やバドミントンを時折体を動かす程度にやっていました。単身赴任なので、これからは家事が趣味になれば！と思っています。
A4：学生が安全に充実した学園生活を送ることができ、将来有明高専で良かったと感じてもらえるよう、学生・教員等の支援をしていきたいと思います。



総務課長補佐
(財務担当)
小川 英利

- A1：九州工業大学大学院生命体工学研究科で総務の仕事をしていました。
A2：今まで大学生や大学院生がいる職場だったので、有明高専の学生さんは非常に礼儀正しいと感じました。
A3：若い頃はドライブとか音楽鑑賞などが趣味でしたが、結婚して子供ができた頃からはこれといった趣味はありません。有明で何か見つけたいと思います。
A4：早く仕事に慣れ、みなさんのお役に立てるよう頑張りますのでよろしくお願いします。



学生課教務係主任
牛島 直史

- A1** : 熊本大学契約課に勤務していました。
A2 : 学生の挨拶が元気よくて、清々しい気分になります。また、校内がきれいに整備されていると感じました。
A3 : ソフトボール、テニス、ランニング等。
A4 : 色々みなさんにご迷惑をおかけしております。早く仕事を覚えて少しでもお役に立てるようがんばりたいと思います。



総務課調達管理係
古瀬 英機

- A1** : 大学を卒業後、3年半ほど地元九州を離れ別の仕事をしていました。
A2 : 広い敷地、整った施設環境、学生の挨拶が印象的です。季節限定ですが、桜がとてもきれいで感動しました。昼休みに桜を見るために散歩したほどです。
A3 : これといったのはありませんが、九州は自然との距離が近く温泉も豊富で料理も美味しいので、その良さを味わいに色々な場所に出掛けて行きたいと思っています。
A4 : 皆さんに迷惑を掛けばかりなので、少しでも早くお役に立てるように頑張りたいと思っています。よろしくお願ひします。



総務課人事労務係
松永 佳織

- A1** : 大学でおもに経済学史を学んでいました。また、学校職員になるための勉強をしていました。
A2 : 緑が多く、校内の雰囲気も学生さんも明るくさわやかだなと感じました。
A3 : 寺社めぐりが好きで、京都によく行きます。綺麗な絵はがきを集めることも好きです。
A4 : 活気あふれる学校という場所が好きなので、有明高専で働けることを大変嬉しく思っています。まだ慣れないことが多いのですが、早くお役に立てるよう頑張りますのでよろしくお願ひいたします。



教育研究技術支援センター
岡崎 朋広

- A1** : 大阪府出身ですが、紆余曲折あって2000年4月より、山口県の大島商船高等専門学校（全国に商船高専は5校しかない!!）で実験実習の指導をしておりました。
A2 : 閑静で清潔な環境は勉強と睡眠に集中できそうですね。有明高専は5学科（大島は3学科）なのでぎやかな印象です。学生については、自分の頃に比べてみんな礼儀正しく、高専生らしいなという印象です。
A3 : 読書と通勤（息抜きとして）ですかね。大型書店に行くと何時間でも立ち読みしてしまいます。通勤中の読書は私にとって最高の幸せですね。駅からもバイク通勤にしてツーリングを楽しみたい今日この頃です。
A4 : 何かを目指したときに勉強の大切さを知りましたし、継続して努力することの偉大さを身にしみて感じます。失敗談ばかりの私ですが、輝かしい未来ある学生（自分も？）のために、何ができるか見つめたいと思います。どうせやるなら楽しんでやりたい派ですね。



学生課学生支援係
相浦 るり子

- A1** : 大学などで事務をしていました。
A2 : 元気よく挨拶してくれる学生さんたちだと、良い意味でびっくりしました。
A3 : 特にありませんが、映画を観ることが好きです。
A4 : 就職関係の事務を担当させていただいている。まだ勉強不足な点が多く皆様にご迷惑をおかけすることがあるかと思いますが、一生懸命がんばりますのでよろしくお願ひいたします。



学生課寮務係
畠中 秀則

- A1** : 警察官として6年、荒尾市役所に31年勤務していました。条例、規則、規約、予算執行の職務にあたっていました。
A2 : 時代の流れにより、大半の学生が服装、髪型共に現代っ子のように見受けられます。有明高専といえば、中学時代の優等生しか入学できない学校がありましたので、昔のように風格と伝統を引き継ぎ、他校とは違う学校になってもらいたいです。
A3 : 家庭菜園やゴルフ。
A4 : 体力が続く限り学生と交流しながら、部活動の柔道を含め、文武両道の指導をしてみたいです。

転出職員紹介

平成21年3月末で転出された5名の事務職員についてお知らせします。

池田 純久 有明高専学生課長……………▶熊本大学総務部人事課長

井上 智太 有明高専総務課課長補佐(財務担当)……………▶九州大学病院医療管理課課長補佐

江島 美穂 有明高専総務課総務係主任……………▶熊本大学研究・国際部国際課主任

岩橋 道宏 有明高専総務課施設環境係主任……………▶久留米高専総務課施設係主任

竹下 和弘 有明高専学生課教務係……………▶熊本大学生命科学系事務部

特集 現代GPにおける取組を振り返って

GP = Good Practice WG = Working Group

出席者

- 現代GPWG委員長 C科 氷室 昭三
現代GPWG委員
M科 坪根 弘明、E科 泉 勝弘、I科 松野 良信、
A科 下田 誠也・飛田 国人・加藤 浩司
進行 現代GPWG副委員長 A科 松岡 高弘



写真左から 氷室先生・坪根先生・泉先生

松岡 平成18年度に文部科学省で採択された現代GP「荒尾地域再生産学住協働プログラムーまちなか研究室から食・酒造り、まちづくりー」は、平成21年3月で3年間の事業を終えました。プログラムは、「地域協働演習」という新たな科目の中で実践されました。この3年間の取組の成果等について、現代GPを主として担当された先生方にお集まりいただきました。

取組の背景・目的・経緯

氷室 高専教育が目指すところですが、以前、国専教では、大学の工学部が理論型、解析型、ニュートン型で、それに対し高専は実践型、総合型、エンジニア型と言っており、大学の工学部と高専の技術者教育をわけて考えてきました。昨年の中教審の答申で、高専では「創造性をもって自ら問題を発見して解決できる実践的技術者」、「ものづくり技術のイノベーションを担う新しい創造的技術者」、「高度化・複合化する科学技術を踏まえた設計思想・設計情報をものづくりの現場で実践できる技術者」を養成することが示されています。このような中教審が目指す技術者像は本校ではすでに10年前から実践してきたと思っています。本校の学習・教育目標が達成されれば、このような技術者は育成されることになります。しかし、10年間取組んできたけれども、実際は思ったほどに学生の実践力が身についていなかったようだと思います。

私は、高専での技術者教育は、卒業後、即戦力をもって現場で活躍できる技術者を育成することと考えております。重要なことは学生が現場に出て、現場で問題を見出して解決できるようになることで、そのような仕組みをつくりたいと思っていました。そのとき、荒尾市から荒尾再生という話があつて、そこで思っていた教育ができるのではないかと思い、現代GPの中にそれを盛り込んで、申請しました。

各学科の取組のテーマ

- M科
・簡易型乾燥装置の試作と評価
・菜種搾油機の設計・製作
・ワイン発酵タンクの設計・製作
- E科
・温度モニタリングシステムの開発
・POSレジの開発

- I科
・SNS電子会議室の構築
～OpenPNEとNetCommonsによる構築例～
- C科
・マイクロバブルによる荒尾漁業再生プロジェクト
・マイクロバブルによる荒尾農業再生プロジェクト
・荒尾梨からの機能性酵母単離プロジェクト
- A科
・まちなか研究室とその周辺環境の整備
・にんじん畑周辺地域の住民の買い物行動と利用状況を理解するためのアンケート調査
・荒尾駅周辺地域のバリアフリー環境改善策の検討・提案
・にんじん畑PR計画の検討・提案

取組の成果や評価、学生養成面での達成度

坪根 取組の成果は、各プロジェクトで設計を行い、製作物ができ上がったことです。今後は、実際に使用してもらい、さらに改善がなされなければならぬと思っています。

一連のものづくりの中で、学生は限られた施設・設備で、ニーズにどれだけ応えることができるのか、絶えず考えなければならず、また、製作方法においても、本校の技術職員と幾度となく打ち合わせを行い、ものづくりにおける人とのコミュニケーション能力の大切さが実感できたのではないかと考えています。

泉 「温度モニタリングシステムの開発」では、要求の調査とそれに基づくシステム設計を行い、授業としては十分なレベルに達したと思います。

「POSレジの開発」では、当初の計画とは異なりましたが、平成20年度の後期からは新しい要求に基づくシステム設計を行い、要求を満たすものが完成して、青研に納めることができ、十分な成果をあげることができたと思います。

松野 地域を意識したインターネット上のサイト構築に関する一連の演習としての科目内容は、ほぼ出来上がったと考えており、GPの本来の目的は達成できたのではないかと思っています。

氷室 マイクロバブルを使用した漁業分野における取組で、これまでのエビの養殖では70%程度の



写真左から 飛田先生・下田先生・松野先生

生存率であったものが、本取組ではほぼ100%まで生存率を上げることができました。ノリの養殖では、ノリの胞子の定着率を60%から85%まで上昇させることができました。担当の方が、「このような数値はつくろうと思ってもなかなかできない」と言われました。

一方、農業分野ではイチゴ、ナス、ナシなどいずれも収穫の向上が見られたのですが、特にキュウリでは収穫がほぼ2倍になり、対照群には根瘤病が発生していましたが、マイクロバブル群にはそれが見られませんでした。根の長さもマイクロバブル群の方がほぼ2倍長くなっていました。荒尾梨からの機能性酵母の単離では、なんとか酵母と考えられる菌を取り出すことができました。

学生諸君もよくがんばってくれました。みんなよく蚊に刺されたのですが、だれもそのことに不満も言わず、黙々と畠仕事や養殖の仕事をやってくれました。特に、現場で漁業の専門家や農業の専門家と直接話し合いながら取り組んできましたので、学生諸君は現場にある問題をよく理解し、それを解決するような工夫をできてきたことは大きな成果だったと思います。

下田・飛田・加藤 にんじん畑が位置するJR荒尾駅周辺地域において、車椅子体験（自走）および高齢者擬似体験（疑似体験装具）を実施し、安全・危険箇所などを抽出しながら記録して、それをまとめてバリアフリー環境マップを作成しました。また、にんじん畑の関係者との交流会と周辺地域の調査を通して、にんじん畑が地域にとってより身近な存在になるようなPR方法の改善案とイベントの提案を行いました。PR計画での若者の発想・提案（わかりやすいキャラクター、わかりやすいロゴマークなど）は、まちなか研究室関係者からの評判が良かったと思います。

そして、にんじん畑の周辺地域の住民に対して行ったアンケート調査では、郵送されてきたアンケート調査票の回答を学生が分担して集計および分析作業を行い、アンケート調査結果の分析方法およびその結果を踏まえ、にんじん畑の改善案を発表しました。

これらの演習の取組を通じて、地域社会の問題解決に、学生が主体的に取組む姿勢がみえたことが何よりの成果であったと思います。ただし、「協働」という視点から見れば、十分でなかった面も

みられ、より一層のニーズのくみ取りと調整が必要だったと考えられます。

今後の展望や課題

坪根 ものづくりの重要な点として、実際に製作したもので予定通りの製品ができなければなりません。したがって、今年度も各プロジェクトは卒業研究の一環として、継続して問題点の洗い出しや改善を行っていく予定です。

今後の課題としては、これまでの予算がない中でどれだけのことが有明高専として地域にできるのかということだと思います。しかし、3年間の現代GPの成果として、人脈というかけがえのない財産が残っており、それは今後も学生と地域を結び付け、お互いに高め合っていくと信じています。

泉 「POSレジの開発」では、更なる使いやすさを追求して、パソコン初心者でも使用できるものを開発したいと思っております。「温度モニタリングシステムの開発」では、温度を数値として画面に表示するだけでなく、グラフ表示も行うことができるよう、また、温度制御も目指したいと考えています。

松野 インターネットに代表される情報通信技術の進歩は極めて速いため、地域向けサイトの構築を試作する演習だけでも、新しい技術を取り入れながら継続して行うことは、意義のあることだと考えています。さらに、構築したサイトを実運用に持っていく機会を用意することが出来れば、なお良い演習につながるのではないかと思います。

氷室 これまで比較的小規模のスケールで取り組んできましたので、漁業分野でも農業分野でもこれからは本格的なスケールで実施していきたいと思っています。それに、マイクロバブル技術を適用した果物や野菜などをブランド化できるようにしたいと思っています。地域課題プロジェクトで「びほう小岱」というマイクロバブルの焼酎をつくりましたが、これが今回できた最初のブランド商品で、このような商品をこれからたくさんつくっていきたいと思っています。

下田・飛田・加藤 地域と協働で取組む事業を授業にする場合、授業時間以外の時間での活動や作業が主になるので、「地域協働演習」を優先して実施しました。しかし、学生の研究活動や専門科目の中には、放課後や休日、長期休業期間中に校外に出て実施するもの、または、まとまった期間で調査活動するものがあるので、それらを行う上では「地域協働演習」が支障になる場合もあります。この「地域協働演習」の運営については何らかの対応を考える必要があるように思います。

松岡 現代GPでの取組の継続は、地域と本校との連携の強化になるでしょう。本日は、現代GPを振り返っていただき、ありがとうございました。

4年生研修旅行

5月12日(火)～15日(金)

機械工学科

三菱重工業(株)名古屋航空宇宙システム製作所 飛島工場／ヤマハ発動機(株)浜北工場／ソニーEMCS(株)木更津テック

電気工学科

NHK放送センター／日本モレックス株／JFEスチール(株)東日本製鉄所／株東芝 浜川崎工場

電子情報工学科

株全日本空輸 全日本空輸機体工場／株テルム 入舟事業所／富士通(株)川崎工場テクノロジーホール／東芝科学館／日本科学未来館

物質工学科

MITSUI CHEMICAL SINGAPORE／シンガポール・ポリテクニック

建築学科

ピースおおさか 大阪国際平和センター／竹中大工道具館／防災未来科学館 人と防災未来センター／法隆寺・薬師寺・東大寺／北野異人館

機械工学科 4M 寺田 匡志

5月12日から3泊4日で、愛知・静岡・東京方面へ研修旅行に行ってきました。1日目の三菱重工名古屋航空宇宙システム製作所飛島工場では、その名のとおり航空機やロケットといった航空宇宙に関する製品が作られていました。



一つひとつの大規模なスケールの大きさに驚きました。2日目は静岡県浜松市のヤマハ発動機に行きました。今回は特別にミッションの製作過程を見学させていただき、工場内の様々な特殊機械を見ることができ、良い経験ができたと思います。また、本校機械工学科OBで元団長の日高さん(M37)の話を聞くことができ、一つのことをクラスで団結して成し遂げる大切さなど参考になりました。3日目は自主研修で東京を巡り、最後の4日目はソニーEMCS木更津テックの見学でした。ここでは、BDレコーダーを生産しており、工場内を非常にキレイにされていたことに驚きました。

今回の研修を通して、自分も将来はこのような企業で頑張っていくのだと自覚しました。



電気工学科 4E 猿渡 純一

私たち電気工学科は、東京方面へ研修に行ってきました。

初日訪れたNHK放送センターでは、スタジオ見学のほか、有明高専OGの方が現在なさっている「良好な受信環境を守るために活動」についてお話を聞くことができ、番組の放送を陰で支える仕事の存在を知りました。

翌日訪れた日本モレックスは、コネクタの製造で高いシェアを誇っており、原材料の調達以外のほとんどを自社で賄うために、金型の設計から製品の耐久試験まで様々な部署がありました。一つの製品を作るうえで多くの人の関わりがあるため、自分の意志を人に伝えるためのコミュニケーション能力の重要さを感じました。また、JFEスチール東日本製鉄所では、エネルギーの再利用を徹底し、CO₂排出量に対する鉄の生産量が世界でもトップクラスということで、地球環境への配慮が感じられました。

最終日には変圧器の製造を手がける東芝浜川崎工場を訪れ、大規模な実験設備を間近で見学することができました。

今回の4日間の研修は、職場の雰囲気を肌で感じることのできる貴重な時間だったと思います。これから進路選択では、今回の研修のことを役立てていきたいです。



電子情報工学科 4I 下河 希恵



私たち電子情報工学科は、東京・神奈川方面に研修に行きました。1日目は全日空の整備工場、2日目はテルムのリサイクル解体工場、富士通川崎工場、東芝科学館に行き、3日目は自主研修、4日目は未来科学館に行きました。

この中で一番印象に残っているのは富士通川崎工場と東芝科学館です。富士通では昔の技術から最新の技術まで目で見たり実際に体験したりして学ぶことができました。特に静脈で認証を行い、家を出るとパソコンが勝手にシャットダウンして個人情報を保護する技術はすごいと思いました。東芝科学館では1年生のときにみんなで見たプロジェクトXに出ていたパソコンやからくり人形が展示されていて、とても興味深かったです。超電導の技術を用いて浮かんで回り続ける箱や、すごい速さでコマ撮りができるソフトなど実際に見てみると圧倒されるものが多く、とても勉強になりました。

この4日間は内容の濃い有意義な4日間になったと思います。研修で学んだことを学校生活や就職してからの生活に活かしていきたいです。



物質工学科 4C 見浦 一成



4Cは、シンガポールに研修に行きました。もちろん日本語は通じずみんな結構苦労していましたが、もっと英語をしっかり勉強しておけば、と実感していました。3日目の自由行動や4日目のシンガポールポリテクの学生との交流では、身振り手振りを交えて必死で言いたいことを伝えようとしていました。

シンガポールは気温や湿度が高く蒸し暑くて、立っているだけで汗が出てきそうなくらいでした。

シンガポールの料理は、正直に言うと、味が薄くてあまりおいしくなかったです。やはり日本の料理をずっと食べてきてその味に慣れてしまっていたから口に合わなかったのかと思いました。

今回の研修は、シンガポールの文化を知ることができ、僕たちにとってとても良い経験になりました。この経験をこれからに活かしていくことを思いました。



建築学科 4A 弟子丸 愛

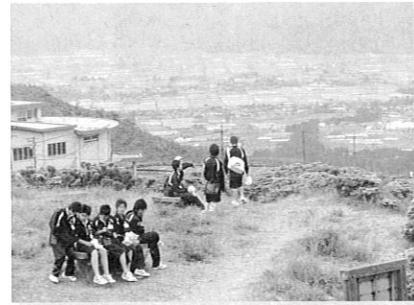
私たち建築学科は、大阪・神戸で現代建築、京都・奈良で古建築を見学しました。研修旅行では、授業や雑誌でしか見たことがなかった建築物を目の前にし、2次元の世界では理解できない圧倒的な存在感、部材一つひとつが積み重ねてきた時代の重さ、そして今にも押しあげてきそうな壮大なスケール感を、心と体で感じることができました。一方、「大阪国際平和センター」では、改めて平和の意味を考え直すことができ、私たちに何ができるのかを考えさせられました。また、「人と防災未来センター」では、地震の脅威を目の当たりにし、建築学を学ぶ私たちは地震と向き合っていかなければならぬということを、深く心に刻んできました。

私は、研修旅行で多くの感動を覚え、多くの課題を発見しました。これからは、今回得た感動を心に秘めそれを学習面に生かす一方、発見した課題をクリアできるよう頑張っていきたいです。



新入生阿蘇オリエンテーション

5月15日(金)～17日(日)



阿蘇研修を通して

11 池末 瞳

阿蘇研修を通して、団体行動でのルールやマナー等を学ぶことができたと思います。団体行動は誰か一人が勝手な行動をとっただけで、他の何十人という人達の迷惑になるということを改めて実感することができました。また、集団で動くため決められた時間を守り素早く行動することや、同じ班や他の班、学科の人達との協力や助け合いがどれほど大切なことなのかを2泊3日の研修の中で良く理解することができたと思います。

友達との協力や助け合いをする中で、今まで会話したことのない人達と交流することができて、友達の輪を広めることができたと思います。また、今まで仲の良かった友達とも新しい一面を発見したりされたりして、今まで以上に仲良くなることができたと思います。

研修の中で行われた講話では、私が不安に思っていた成績のこと、将来のこと、就職内容など多くのことをお話しいただいたので、これから私は何をしなければいけないのか、何を考えなければいけないのかなどを考えられる大きなヒントをもらえたように思います。なので、自分自身のことを真剣に考えようと思いました。

この大自然の中で自分のことを自分でやり、他の人とも協力して生活した2泊3日の阿蘇研修は、厳しいときもあったり、きついときもあったりしたけど、それ以上に楽しいことや得たものがあったと思います。とても良い経験になりました。



阿蘇研修

1M 御厨 一晟

僕は、この阿蘇研修に行って学んだことがたくさんあります。

まず、仲間との協力です。1日目の学生会ミーティングでの校歌の練習では、全員で協力して団長に必死に付いていこうとしました。部屋の中では、掃除をしたり、布団をたたんだりと協力し合い、改めて仲間の大切さや協力する心を学ぶことができました。

次に、マナーの大切さです。相手の立場に立って考えて行動することで、相手を思いやるということを、改めて学ぶことができました。

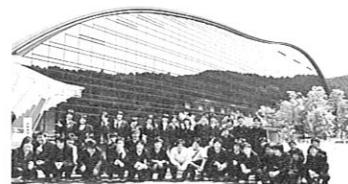
自分にとってこの3日間は、1ヶ月に相当するほどの経験になったと思います。一つひとつを自分で考え、工夫しながら行動し、相手を思いやることができれば、集団がまとまり、全体でうまく行動することができると思います。でも、集団がまとまるのは簡単なことではないと思います。一人がルールやマナーを破ることで、全体に迷惑がかかります。一人でも欠けたらいけないと思います。一人はみんなのために、みんなは一人のために行動するということを、この阿蘇研修で学ぶことができました。そして大切なことは、学んだことをこれから的生活に活かすことだと思います。これから的生活では、もっとみんなのことを考えられるように、がんばっていきたいです。自分にとって阿蘇研修は、一生の思い出になりました。

2年生研修旅行

混合学級クラス編成の2年生の研修は、「教養を高め、社会性を身につける」を目的に、クラスの親睦もかねて、九州国立博物館とその周辺の見学を行っています。

九州国立博物館について

- 九州国立博物館は、160m×80mの長方形で、蒲鉾形をしています。高さは、一番高いところで36.1mもあります。しかし、階数では、地上だけで、たった5階しかありません。これは、大きな文化財を展示できるように、1階ごとの高さを大きくしたのだそうです。また、文化財を守るためにいろいろな工夫や設備がありました。UVカットの機能を持つガラスや、24時間態勢の空調管理、そして一番重要な免震装置。免震装置は、232台も取り付けられており、「世界最先端の免震技術」だと言われています。このような工夫や設備が、文化財の昔の姿をそのままに保たせているんだと思いました。
- 九州国立博物館は、歴史を見せるだけでなく、歴史を守るという目的もあるのだと知つて驚きました。特に、地震等の災害から守るために、耐震構造となっており、それを実際に見て、博物館にあるものがどれだけ価値のある大事なものだということが分かりました。また、博物館内でも、伝えるためにいろんな工夫がされているのがよくわかりました。



1組4/28(火)



2組4/30(木)



3組4/24(金)



4組5/1(金)



5組4/22(水)



特別展「聖地チベット ポタラ宮と天空の至宝」について

- チベット展の展示品は、とても細工が細かく、写真等で見るものとは、全く違う雰囲気を持っていた。仏像一つひとつは細かいところまで正確に作ってあり、現代のものではない何か圧倒されるものがあった。また、展示品等を通して、チベットの文化・仏教について少し触れることができたと思う。
- 多少怖い形相の仏像がたくさんあったけど、チベットの人たちは、とても仏教について興味を持ち、真剣に一人ひとりが信じているのが伝わってきた。また、チベットの未知なる文化が少し分かったような気がした。
- 展示されていた神様とかは、よくわからなかつたが、その顔や手の多さに驚いた。ただ、なぜ像を金色にしなければならないのかと不思議に思う。だが、その特異な文化はすごいと思う。それと医学についてのものがあったのには驚いた。
- 人の骨を使った法具など信じられないようなものもあり、考え方の違いなのだろうかと思った。また、たくさんの仏像があり、チベットの人の信仰の深さがうかがえた。



太鼓橋について

太鼓橋に込められた意味は、『過去、現在、未来』だけではなく、過去も未来も現在(平橋)からは見えないから、今を精一杯生き、どんなことが起こるとも、堂々と未来へと歩む。その上で、通り過ぎてしまった過去は悔やまず、前だけを向いて行こうという希望の橋だと思う。自分自身この橋を渡った時、どんな意味があるか分からなかつたが、平橋でふとを考えたとき、この壮大さに感動した。これから先、どんなことがあろうとも自分らしく生きて行こうと思いました。



飛梅について

一見大きな梅にしか見えませんでしたが、じっくりと見てみると、とても生き生きとして、大地にしっかりと根を張り巡らせていました。花もとてもきれいでいたが、何か普通の梅と違う魅力がありました。

全体の感想

- 今まで話をしたことのなかったクラスの人と、この研修をきっかけに交流を深めることができたので、良かったと思います。博物館では、教科書に載っているような展示品が数多くあり、学習面にも結びつけることができたと思います。また、次回来る機会があれば、もっとゆっくりと見て回りたいと思いました。
- 気温が高く、日差しも強かつたので、汗だくになりながら歩いたので、きつかったです。研修は充実していて、みんなと仲良くなれたので、よかったです。
- 2年生になって、初めての行事だったので、少し不安だったけど、実際に行って見てとても楽しく過ごせました。博物館も1回行ったことがあったけど、今回の研修旅行でまた行って、博物館が未だに人気がある理由が分かった気がしました。前もって計画していたけど、計画通りに回れなかつたので、そこが少し残念でした。

専攻科 新入生 1泊研修

4月23日(木)・24日(金)

専攻科新入生同士および担任との親睦を深めるため、4月23日(木)・24日(金)に「リフレスおおむた」で恒例の一泊研修を行いました。23日午後から出かけ、2年間のスケジュール説明、自己紹介、バーベキューパーティー、懇親会、2日目は単位履修の説明、大牟田エコタウン見学と続き、14時過ぎに帰校しました。自己紹介の時はよそよそしかった学生諸君もバーベキューパーティーの時はうってかわってうちとけ合い、バーベキュー効果は絶大です。校長からは「学問のススメ」ならぬ「勉強のススメ」を講話いただき、「自分がどういう人間かを知ることが大事」と説かれました。今年は、バーベキューパーティーが思いのほか時間がかかり、入浴時間が1時間しかなく、男子に至っては約15名ずつ15分の2交替となるで芋の子を洗うような、それがかえって楽しい入浴となりました。予約段階で宿泊室3室を確保できず女子は通いも考えたのですが、施設側の好意で調整していただいた上、「来年も是非来てください」という言葉をいただきました。昨年に続く学生諸君の協力のおかげです。再び感謝します。

(専攻科長 北岡 敏郎)



研修の様子



校長講話



バーベキューパーティー



バーベキューパーティー



大牟田エコタウン見学



大牟田エコタウン見学

新入生歓迎行事

4月17日(金)

4月17日(金)に、毎年恒例の新入生歓迎行事が行われました。この歓迎行事では、新入生が在校生に向けて大きな声で自己紹介を行い、パフォーマンスをすることで、自己PRを行うよいきっかけになったと思います。今、自分が1年生だった頃のことを振り返ってみると、大勢の先輩方に圧倒され、とても緊張していたことを思い出します。新入生の皆さんも、最大で4歳も歳の離れた先輩方の前に立ち、とても緊張したこと思います。この緊張を乗り越えた時の達成感は、とても大きかったのではないでしょうか。

これから先、思い通りにならざるに大きな壁にぶつかることが出てくると思います。そんな時には、今回の歓迎行事で得た達成感を思い出し、壁を乗り越えるための材料としてください。

各学科には、学科毎の伝統や雰囲気があります。今回の歓迎行事を通してそれらを少しでも感じ取ってもらえたなら幸いです。

また、今年は2年に一度の体育祭を10月18日(日)に控えています。昨年の高専祭に増して、学科の絆、団結力が必要不可欠となります。一人ひとりが学科の一員であることを自覚し、体育祭を成功させましょう。

まずは、挨拶を通して、多くの人とコミュニケーションをとれるようがんばってください。

(学生会会長 5M 柿原 隆宏)



岱明寮だより

今年度スローガン
CHANGE!～規律ある寮生活へ～

●新入寮生歓迎夕食会

4月8日(水)、岱明寮において、新入寮生歓迎夕食会が行われました。校長先生・寮務主事からの挨拶、出席教職員の紹介の後、会食が始まりました。その後、恒例の新入寮生一人ひとりによる自己紹介が行われました。

河田さんステキ！



かわたく

よねーん！



なつかしきかな寮務
主事時代(中島先生)



指導寮生がまずはお手本を披露

元気に自己紹介

校長先生も見てます

●寮父さん、寮母さんに聞く

この4月から畠中さんに岱明寮初の寮父として勤務していただいています。この機会に岱明寮の「縁の下の力持ち」的存在の畠中さんと寮母の青木さんにインタビューしてみました。

1. 畠中さん、寮生の印象はいかがですか？

寮生の皆さんは親元を離れて、両親の愛情が欲しい年頃ですが、日常生活に伴うことを自分でしている姿を見ていると、愛らしくて感心します。

下級生は大きな声で挨拶しますが、上級生は小さな声で視線を逸らして挨拶していますので、初心をいつまでも忘れないで、大志を目指してもらいたいですね。

猫と遊ぶのが
大好きです！



I love柔道！格闘技
を楽しみませんか？

2. 寮父としての抱負をお聞かせください。

学生の生命と身体を守り、明るい寮生活のもとで、学生が勉強とスポーツに励むことができるような環境づくりの職務遂行にあたりたいと思います。

3. 青木さんは寮母として4年目になりますが、寮母として特に気を配られていることは何ですか？

“1年生だから”、“上級生だから”などの分け隔てはせず、寮生全員には常に平等に接するように心掛けています。寮生の皆さんとの日常会話を通して、「いつもと変わった所はないか?」「困っていることはないか?」など些細な心境の変化などにもすぐ気付いてあげられるように努力しながら、毎日楽しく過ごさせてもらっています。

4. 寮母をしてよかったですと思うがあれば、それはどんな時でしょうか？

やはり、「いつもお世話してくれてありがとうございます」の一言を聞いた時ですね。現在の寮生ももちろんですが、卒寮生が寮を訪問した際に、改めて感謝の言葉をかけてもらった時などは、少しでも役に立つことができたのかなと思うと、寮母をしていて良かったと思います。

お二人ともどうもありがとうございました。（聞き手：寮務主事補・村田 和穂）

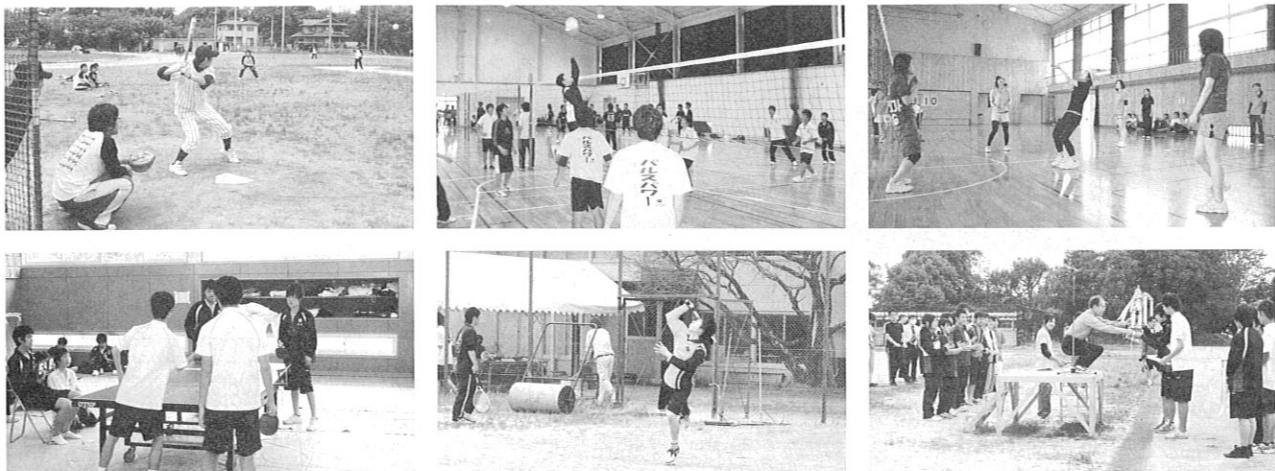
春季球技大会

5月22日(金)

5月22日(金)に、春季球技大会が行われました。5年生を中心に練習の時から盛り上がっていました。前日に大雨が降り、グラウンドのコンディションは厳しかったですが、5年生や部活動の方々が水抜きをしてくれたので、無事に晴天時の競技を行うことができました。また、全体的に進行もスムーズで、無事に終えることができました。本当にありがとうございました。

冬季球技大会でも、クラス一丸となり、がんばっていきましょう。
(体育局長 5A 長嶋 龍太朗)

最優秀クラス	3M	優秀クラス	5M
種 目	優 勝	MVP	準優勝
ソフトボール	4A	高田 紘伸	5E
バレー ボール	専攻科	関 勇輝	3M
女子バレー ボール	3C(a)	田島 愛	4A
卓 球	II	古賀 一力	2-5
ソフトテニス	5M	松本 國孝	3A



14

卒業式・修了式

3月13日(金) 第1体育館

第42回卒業式および第7回専攻科修了式が3月13日(金)10時30分より第1体育館で挙行されました。卒業生171名には「準学士」の学位記が、修了生32名には本校専攻科の修了証書やJABEE修了認定書および「学士」の学位記が授与されました。また、校長による式辞、大牟田市長および荒尾市長による祝辞、学生会長である柿原隆宏君(4M)による送辞および卒業生・修了生代表者である二宮晃君(5I)による答辞などがありました。卒業生および修了生の皆さんこれからのご活躍を祈念いたします。



答辞を読む卒業生代表



学生会長による送辞



証書授与



退場する卒業生



成績優秀者

機械工学科 藤木克洋
電気工学科 角口公章
電子情報工学科 松岡禎知
物質工学科 田中友梨
建築学科 藤木亜希子

学会表彰

機械工学科 石丸大祐 (日本機械学会畠山賞)
電気工学科 高山隆一 (電気学会九州支部長賞)
電子情報工学科 只隈真悟 (電子情報通信学会九州支部長賞)
物質工学科 永尾衣里 (日本化学会九州支部長賞)
建築学科 宮下いづみ (日本建築学会九州支部長賞)

卒業生・修了生の進路

機械工学科

(株)エクセディ
(株)荏原九州
川崎重工業(株)
(株)カンセツ
キヤノン(株)
九州グリコ(株)
(株)久保鉄工所
セイコーインスツル(株)
ダイハツ工業(株)
(株)中央エンジニアリング
デンソーテクノ(株)
TOTO(株)
東燃ゼネラル石油(株)

凸版印刷(株)
(株)日産テクノ
日本海洋掘削(株)
(株)日立ハイテクノロジーズ
(株)三井ハイテック
(株)三井三池製作所
三菱重工業(株)
有明高専専攻科
大分大学工学部
九州工業大学工学部
熊本大学工学部
長崎大学工学部
九州デザイナー学院

物質工学科

オーム乳業(株)
(株)関東化学
サントリー(株)
三洋化成工業(株)
昭栄化学工業(株)
昭和電工(株)
住友精化(株)
大日精化工業(株)
武田薬品工業(株)
田中電子工業(株)
東京エレクトロン(株)
東レ(株)

(株)東洋新薬
(株)トクヤマ
日東電工(株)
(株)日本触媒
日本ペイント(株)
日立化成工業(株)
(株)三井化学分析センター
三菱重工業(株)
室町ケミカル(株)
有明高専専攻科
北九州市立大学国際環境工学部
熊本大学工学部

電気工学科

(株)荏原九州
大分キヤノン(株)
関西電力(株)
九州電力(株)
九州旅客鉄道(株)
(株)きんでん
金剛(株)
サントリー(株)
(株)三松
ソニーEMCS(株)
ダイハツ工業(株)
(株)ディスコ
日産自動車(株)
(株)日産テクノ

パナソニックコミュニケーションズ(株)
富士通(株)
(株)富士通九州システムエンジニアリング
本田技研工業(株)
三菱化学エンジニアリング(株)
三菱電機システムサービス(株)
安川情報システム(株)
(株)安川電機
有明高専専攻科
大分大学工学部
九州工業大学工学部
佐賀大学理工学部
豊橋技術科学大学工学部

建築学科

(有)アカツキ建築設計
(株)アソウ・アルファ
NSK(株)
(株)NTTファシリティーズ九州
九鉄工業(株)
(株)鴻池組
五洋建設(株)
三機工業(株)
新菱冷熱工業(株)
住友不動産(株)
(株)総合設備コンサルタント
ダイアン(株)
大和ハウス工業(株)
高砂熱学工業(株)
(株)竹中工務店
(株)TAK-QS

東建コーポレーション(株)
戸田建設(株)
(株)名村造船所
(株)西松建設
(有)福岡構造
(株)フジタ
万代ホーム(株)
山本設備工業(株)
(株)若築建設
有明高専専攻科
明石高専専攻科
鹿児島大学工学部
北九州市立大学国際環境工学部
熊本大学工学部
千葉大学工学部
豊橋技術科学大学建設工学課程

電子情報工学科

(株)アルパック
NTTコムウェア九州(株)
NTTネオメイト(株)
オムロンリレーアンドデバイス(株)
スズキ(株)
スタンレー電気(株)
中外製薬工業(株)
デンソーテクノ(株)
(株)トッパン・テクニカル・デザインセンター
(株)トヨタプロダクションエンジニアリング

ネットイットワークス(株)
マツダ(株)
有明高専専攻科
大分大学工学部
九州工業大学情報工学部
熊本大学工学部
長崎大学工学部
宮崎大学工学部
ESPミュージカルアカデミー^ー
九州安達学園九州デザイナー学院

生産情報システム工学専攻

アイシン精機(株)
麻生情報ビジネス専門学校
(株)アマダ
NECマイクロシステム(株)
第一精工(株)
ダイハツ工業(株)
(株)タムラ製作所
(株)ニコン

富士ダイス(株)
(株)マツダ
三浦工業(株)
大阪大学大学院
九州大学大学院
九州工業大学大学院
佐賀大学大学院

建築学専攻

(有)河上信行建築事務所
九州地区国立大学法人等職員
九州旅客鉄道(株)

JFEシビル(株)
(株)福岡多田精機

応用物質工学専攻

旭化成(株)
(株)カネカ
(株)自主検査センター

ニシヨリ(株)
日立化成工業(株)
京都大学大学院

学生表彰

平成20年度 1年間皆勤賞

1M	1E	II	1C	1A	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5
22名	17名	22名	17名	11名	7名	14名	8名	4名	10名

ト ピ ッ ク ス

物質工学科氷室昭三先生が文部科学大臣賞を受賞

国立高等専門学校機構は教員の様々な活動のうち特に教育活動や学生生活指導などの分野で顕著な業績を上げている教員を顕彰しています。今回、物質工学科の氷室先生が「地域貢献に結びついた技術者教育」という顕彰題目で文部科学大臣賞を受賞され、平成21年3月23日に平成20年度教員顕彰式が行われました。



地元の産業遺産 三池港閘門技術模型の製作

1908年に築港された三池港には、100年経った今でも利用されている「閘門」があります。閘門には、当時の技術者が考えた技術が使われていて、これらの技術を現代の人達に分かってもらえるような技術模型を作りたい!という目的で、機械工学科の城政孝君と原田恭之君が卒業研究として取組みました。「水漏れ」

「加工ミス」「材料の選定ミス」等々、一つのものを作り上げる難しさを実感しながら、多くの先生方や企業、市役所の方々の協力を得て完成させました。城君と原田君は、「100年前の技術に感心しながら作りました。多くの人々に興味を持ってもらい、楽しみながら学んでほしいです」という感想を語ってくれました。

(機械工学科 篠崎 烈)



協力していただいた皆さんとの記念写真

編集後記

新学期が始まり早3ヶ月、萩尾坂の紫陽花が日ごとに色づく長雨の季節となりました。

この間、オリエンテーションや研修旅行・球技大会と、新しい環境で、非常に濃い時間だったのではないでしょうか。今号では、そんな皆さんの充実した高専生活をまとめています。また、皆さんの先輩方の卒業式・修了式の様子や、進路の紹介もしています。入学時の意気込みを振り返り、これから歩む道に思いを馳せるきっかけになれば幸いです。

夏には高専大会や期末試験を控えています。体調管理を万全に、うつとうしいこの季節を乗り切りましょう。

新握力測定器の開発

写真是柳原研究室の研究成果を基に、大牟田市福祉ものづくり研究会会員の矢部川電気工業（株）と共同開発した高齢者向け把握動作機能診断装置「ケンコーにぎるくん」です。「ケンコーにぎるくん」は自動車等の動力計測に用いられている計測原理を筋力計測に応用して、被験者の筋力（手の握力能力）や、反射神経が計測できます。一般に広く使われている握力計や背筋力計などの筋力計はバネばかりの原理を利用してます。この測定方式ですと高齢の被験者の方によっては力を込めすぎてしまい、血圧上昇などの悪影響があることが我々の研究から明らかになっています。しかし今回開発した装置ではそのような力を込める動作は必要なく、高齢の方は入力デバイスのレバーを操作するだけで手軽に筋の能力を測ったり、トレーニングをすることができます。

(機械工学科 柳原 聖)



シンガポール交流プログラム

本校の国際交流の一環として、3月15日（日）から24日（火）まで学生14名と引率教員2名でシンガポールポリテクニック校を訪問しました。この交流プログラムを通じて、学生達はシンガポールという国を知ることができたのはもちろんのこと、シンガポールの学生と友達になり、多くの交流を行ってきました。この交流プログラムは、本校の学生にとって、英語の実践的な学習や国際交流の意義を知ることに加え、国際的な視野を広げるための貴重な経験であり、さらには今後の自己の成長への大きなモチベーションになったことでしょう。

(国際交流委員会 坪根 弘明)



送別会での交流

シンガポール チャンギ国際空港にて

有明高専だより 第128号

平成21年6月26日

編集・有明高専広報室
発行・有明工業高等専門学校
〒836-8585 大牟田市東萩尾町150
TEL 0944-53-8861(学生課)
<http://www.ariake-nct.ac.jp/>

